

尼子家の「御一家再興」戦争と山中幸盛 〈史料編〉

山梨県立博物館 学芸員 中野賢治

【史料1】

※史料の傍線は全て引用者が付したものと

〔貼紙〕 「万松院義晴卿」 雲州日御崎遷宮修造化縁簿		権大納言 <small>(足利義植)</small> (花押)	
〔貼紙〕 「出雲国司」		<small>(尼子経久)</small> 佐々木伊予守 (花押)	
雲州一國棟別之事		無所免除申付候	
伯州 汗入郡 日野郡 <small>(念)</small> 相見郡		棟別之事 無所免除申付候	
石州 <small>(途)</small> 尼摩郡 安濃郡 <small>(邑智)</small> 大知郡		棟別之事 無所免除申付候	
隠州一國棟別之事		無所免除申付候 付材木之事	
日御崎付テ御造營、 任先例公方様御下 知、御判在			
大永四年 <small>(甲)</small> □申卯月十九日		奉行 亀井能登守 <small>(秀綱)</small>	

〔松江市史〕史料編4中世Ⅱ八二〇号「日御碕神社文書」

【史料2】

天文九年秋至芸州吉田尼子民部少輔発向之次第

- 一、九月四日、至多治比取出罷立国々之事、出雲・伯耆・因幡・備前・美作・備中・備後・石見・安芸半国、此勢打入之時三万也
- 一、同五日、吉田上村江打出、家少々放火、此日者不及合戦候
- 一、同六日、太郎丸其外町屋等放火、此時尼子衆先懸之足輕数十人討捕候
- 一、同十二日、後小路放火、此時大田口にて大合戦候、敵には高橋・本城を始として数十人討捕候、味方二ハ井原之樋爪・渡辺源十郎二人討死、広修寺繩手・祇園繩手両口合戦、互死人なく候
- 一、同廿三日、青山三塚山江尼子陣替、此時敵本陣風越山を一陣此方ヨリ焼崩候

一、同廿六日、至坂・豊島敵動候之处、杉次郎左衛門尉、(元相)

(竹原事也)(興景)

- 小早川中務少輔依為坂在陣、取向候、左候处、元就手衆馳合、路二里之間送り付候而、湯原弥次郎其外数十人討捕候
- 一、十月十一日、敵いつものことく、郷内打おろし候处、元就仕懸追崩、既敵陣青山構際追込、三沢三郎左衛門尉・福頼・中西以下数十人討捕候、味方二ハ福原親類一人討死 (為幸)

一、大内勢陶五郎、(隆房)

- 十二月三日為後卷、山田山中江山陣、勢数万也
- 一、同十一日、両陣手合、此日於宮崎長尾、敵者伯耆南条・小鴨、雲州高橋、芸州吉川、味方二ハ毛利・完戸衆合戦、敵一兩人討捕候、味方無死人候

一、翌年正月三日、於相合口合戦、敵十余人討捕候、味方一人茂無越度候

一、同十一日、陶五郎、郡山尾つゝき天神尾江陣替

一、同十三日、敵陣宮崎長尾江元就仕懸、則切崩、三沢・高尾始として、宗徒者二百余人討捕、其俣敵陣焼跡二切居候、此日陶衆と三塚陣

衆合戦候而、陶被官深野平左衛門尉・宮川以下十余人討死、敵には尼子下野上討死 (興房)

- 一、同十三日夜、其まゝ尼子陣退散、敵却口を送り候、犬ふし山の雪二漕草臥、石州江乃川にて、或船を乗り沈メ、或渡りへ追ひたされ、死候者、更不知数候、先年道永天王寺御崩之時、於渡辺川死候趣之由申候

一、因茲、備中・備後・安芸・石見、多分防州一味候

一、近日大内義隆有渡海、雲州可有乱入催半候

一、上口之儀、此時可被押下事肝要候

- 一、去年九月四日ヨリ今年正月十三日之間、於通路討捕、日々於野伏射殺候不知数候、定而可有其聞候条、不能申候也

天文十年二月十六日

〔出雲尼子史料集〕五〇六号、「毛利家文書」

【史料3】

(安芸)

尊書拝見候、如仰去年尼子於吉田表取懸、即時彼陣切崩、得大利候、就

夫近日至雲州坊州屋形御進発候、弥可為大利候間、可御心安候、仍佳例

(大内義隆)

之兩種致拝領候、忝奉存候、○御初尾錢渡進之候、尚四郎五郎方へ申入候、恐々謹言

志道善九郎

(天文十年)
十一月廿二日

通良 (花押写)

村山四郎大夫殿 まいる 貴報 (武恒)

〔出雲尼子史料集〕五三九号、「贈村山家返章」

【史料4】

去五月貴札、同七月到来、拝見候

抑恒例之御祓太麻井土産拝納候、仍而輕之至候へ共、鳥目五十疋為当秋

御初尾渡申候、国之弓矢半候、公私御祈念弥奉頼候、猶委曲太郎左衛門尉

(市川) 殿可被申候条閣筆候、恐惶謹言

井上新左衛門尉

八月廿三日

元吉 (花押写)

村山四郎大夫殿 まいる 貴報

追而申候、就弓矢元就可致寄進事、内々申上候哉、定而不可有油断

候、雲州国之儀大内殿多分被任御存分候、就其元就弥如存分候、何茂

太郎左衛門尉殿可被申候

元吉 (花押)

〔出雲尼子史料集〕五六六号、「贈村山家返章」

【史料5】

又子共所より少ツ、御はつほ進納候、當時在陣候条甲斐々々無調進

候、奉期来年候々々

貴札拝見候、毎年御祈念之御祓并種々送給候、弥重々々忝候、仍去年春以

来防州屋形御在国候、備芸石三ヶ国之事者不及申候、至雲伯兩州茂此比

悉平均被仰付候、公私之大慶此節候、併御神慮者目出度候、弥御祈念專要

候、隨而鳥目二百疋進上候、御言理事四郎五郎可被申候、尚以期後喜候、

恐惶謹言

志道上野介

(天文十一年九)
八月廿八日

広良 (花押写)

大神宮御師

村山四郎大夫殿 御報

〔出雲尼子史料集〕五六八号、「贈村山家返章」

【史料6】

就今度大内方取相、親父備中守光清、去年五月以来至今今年七月、瀬戸要害

被楯籠、防戦之次第、更以無比類候、殊七月廿七日惣責候衆数百人討捕、

高名無其隠候、然处、光清致鎌不慮之討死、無是非候、依其国中悉敵同意

候、富田一城二成行候、对佐々木家光清勲功一令感悦也、猶委細河副

(久盛) 右京亮申へく候、恐々謹言

天文十一

八月廿八日

晴久（花押写）

赤穴孫五郎殿^{（盛時）}

『出雲尼子史料集』五六九号、「因幡志」唯藏人所持文書

【史料7】

^{（包紙ウハ書）}

「吉川治部少輔とのへ」

雲州令和睦可抽忠切之趣、対元就・隆元差下使僧遣内書候、加意見、弥京都之儀令馳走者、可為神妙、尚信孝可申候也

五月十三日^{（永禄二年九）}

^{（足利義輝）}
（花押）

吉川治部少輔とのへ

『出雲尼子史料集』九七七号、「吉川家文書」

【史料8】

就雲・芸間之儀、言上之趣委曲被聞食訖、過來儀互止宿意、以聖護院門^{（道増）}

跡申之通、同心可為肝要候、猶晴忠・晴舍可申候也^{（大館）}
^{（進士）}

十一月二日

^{（足利義輝）}
（花押）

尼子修理大夫とのへ^{（晴久）}

『出雲尼子史料集』九八七号「佐々木文書」

【史料9】

芸州・雲州和談之事、堅申暖候上者、石州表之儀、互止意趣、幾重茂無事之段、尤可然候、但達而存分之儀候者、幸聖護院門跡御逗留候条、具可相談候、更以失面目候事不可在之候、無別儀於相調者、天下静謐之基候也

四月四日

^{（足利義輝）}
（花押）

毛利陸奥守とのへ^{（元就）}

『出雲尼子史料集』一〇一六号「毛利家文書」

【史料10】

御和談之儀、自最前如申合、いさゝか不存表裏、ありやうのほかは無別心候、雲州よりのたのまれ候やうの約諾、第一於愚老不存知候、必雲州のためをもわるかれと存事ハ無之候、たゞ無事正路を存計候、もし少も元就・隆元の御ため悪さまの心中を存知候ハ、

日本国中小神祇、殊熊野三山・大峯八大金剛童子・八幡大菩薩・両部諸天、当島巖島大明神御罰をかうふるへく候、いさゝかも対申元就・隆元、不存知別心表裏候、為後日令啓候、然者、和談事も、依様体可有同心にて候ハ、弥可馳走候、若又何やうに候共、不可有同心にて候ハ、愚拙も可有覚悟事候間、御入魂所仰候、少も不可致他言候、仍起請如件

永禄三年五月廿日

「

毛利陸奥守殿^{（元就）}

毛利大膳大夫殿^{（隆元）}

『出雲尼子史料集』一〇二四号、「毛利家文書」

【史料11】

然者雲州遣置候人質、去二日引手候而同二日現形仕、因茲赤穴右京亮同^{（久清）}

意仕、泉山去渡候、波根山城守・池田藤兵衛尉以下懇望候、^{（石見）}
鰐走城牛尾^{（久清）}

太郎左衛門尉明退候、温泉要害同然候、其外或明退、或降参仕候条、石州之事無残所任倅存分候、雲・伯之内茂敵城所々一味中仕取候、尼子方・我等和平之事、連年被成御下知候条、万端致堪忍、奉応上意候之処、^{（大友氏）}
豊州衆^{（隆兼）}

於豊前門司及鉾楯候刻、福屋荷推候而再乱ニ企歴然候、^{（道増）}
聖門様御在国候て被成御証明候時如此候上者、向後不可相届之段覚悟之前候、於愚意者既捧一通啓上候つ、聖門様淵底被知召候事、非我等聊尔緩怠之段、弥御披露所仰候、於様体者追々可令啓達候間、先以不能詳候、恐惶謹言^{（永禄五年）}

六月廿三日

隆元 御判

元就 御判

『出雲尼子史料集』一一五七号「閔閱録遺漏」

【史料12】

^{（包紙ウハ書）}

「棚守左近衛将監殿 御報」

備中守

尚々彼是委細之趣者、自惠聞所可申候く

隆元

出張之儀付而御祈念之卷数送給候、謹而令頂戴候、弥御懇祈憑存候、随而

雲州表之儀、三沢・三刀屋・桜井現形候て、^{（大原郡）}
中郡 至原手境、^{（隆家）}
完戸

山内・多賀山打入候、此口之儀、至塩^{（神門郡）} 治・島根境、来廿八日可相動

覚悟候、吉左右重畳可申述候、猶必従是可令申候、恐々謹言^{（永禄五年）}

七月廿三日

隆元（花押）

^{（礼紙切封ウハ書）}
「（墨引）」

備中守

棚守左近衛将監殿 御報

隆元

『松江市史』史料編4中世II一〇九八号「巖島野坂文書」

【史料13】

鰐淵寺領書立事

一、直江・国富両所散在田畠等之儀、如先規為守護不入之地、鰐淵寺可有知行候、近年富田為結恩名職相抱人、何茂不可叶候、於向後、百姓等武家江奉候者、其抱分被召放、余人可被仰付之候、其外諸御寺領百姓等下地、他所之仁不可立沽却質券事

一、諸郷之内坊々経田、当知行不可有相違事^{（紙継目、裏花押）}

一、別所・辛川、室役・紺役・其外諸課役、如先々令免除之事^{（唐）}

右、全可有御寺務状、如件

永禄五年八月十六日

国司右京亮

元相（花押）

児玉小次郎

元実（花押）

鰐淵寺

年行事御坊

『出雲尼子史料集』一一七二号「鰐淵寺文書」

【史料14】

鰐巢江遣候鉄放はなし中間共事、今度敵動二涯分辛勞仕、一廉はなし候

由^{（隆慶）}
宍道注進候、神妙候、弥可加褒美候通可申聞候、謹言

八月廿四日

隆元 御判

「栗屋与十郎殿^{（元種）}

内藤弥十郎殿^{（元榮）}

隆元

『出雲尼子史料集』一一七五号「閔閱録161・後藤屋善兵衛」

【史料15】

^{（前欠）}

因州武田・備中三村・備後衆、至富田境差寄候、当国之事者、至塩治・原手・中郡・三沢、此方一味候之条、相究富田一所候、然間此時可仕詰覚悟候、乍恐可御心安候、此等之趣自然之時者可被達上聞事可畏入候、此由可得御意候、恐々謹言^{（永禄五年）}

九月十八日

隆元（花押）

元就（花押）

三好筑前守殿 御宿所

『出雲尼子史料集』一一七九号「毛利博物館諸家文書」

【史料16】

就今度籠城、別而御祈念、祝着候、為新寄進、於大芦内五拾俵令社納候、弥入魂肝心候、仍寄進状如件

永禄五年九月廿六日

義久（花押）

御崎殿

『出雲尼子史料集』一一八〇号「日御崎神社文書」

【史料17】

於道前三百貫地進置候、全可有御知行候、又以富田一途上、二百貫地可進^{（宋戸）}
之候、尚隆家可被申候、仍一行如件

永禄五年十月十七日

隆元（花押）

元就（花押）

山内新左衛門尉殿^{（隆通）}

【史料18】

去五日、於雲州完道陣、本城越中守討果候時、頸一討捕候、高名無比類候、弥可抽忠節事肝要候、仍感状如件

永禄五年十一月十三日 広相 判
原田喜太郎殿

〔出雲尼子史料集〕一一九六号「平賀共昌集録旧記」

【史料19】

其表様体銘々示給候、具令承知候、然者毛利元就一類于今令在陣、取詰之由候条、弥無油断以調略不拔足之様、御才覚肝要候、仍豊前目之儀、過半属案中候、此節義(尼子)久於申談者、自他永々可為静謐之条、各別而可被励忠儀事專一候、猶重々可申候、恐々謹言

十二月廿三日 宗麟 (花押)

森脇孫三郎殿

〔出雲尼子史料集〕一一九七号「吉川家文書」

【史料20】

兼 弥 元就
書状具披見候

一、此表陣替、行之事此間 国雅允 委細申候、然共猶以申談度候て、其方来儀之事申候つれ共、遅々之間小倉新四郎差下候つる

一、惣別 刑太 左太 間一人下進候て可申談儀二候へ共、刑太事者爰元只一人談合共候、又左太者此間中所勞候而さんくの事候、やうく今程ちと罷出体候間、思ひながら不成候而笑止二て候、其外之儀は不能申候、誰もなく候間せめて 小新 を下進候つる

一、爰元陣取之趣者、あらハひ崎江可陣取候、是ハ白鹿へハ程遠、水うミのさわ二て候、さ候間わくら山を同日取候而一城相構、富田と島祢之間を取切候へてハ不叶事二て候く、然間是をあらハひ崎へ陣替、同日に取付候へてハとミなく申事候、其故者

一、敵もしく此覚悟二て、さきさまへ取上候へハ、切崩候はんなどの事も大儀にて候条、あらハひへ陣替候者、同日同時に可取付との事二て候一、此分二両陣可取付候間、勢数候へてハ不叶事二て候く

一、然処爰元以外無人数たるへく候間此氣遣候、結句宍戸 山内 方なとさへ三刀屋表遣候、何共せうしに候く

一、如此候条、其元にも勢衆一円御座候ましく候へ共、二百・三百成共給候へとの申事候、五百も六百も候へハ猶以安堵候く

一、隆元之儀者先懸屋二御座候而、あらハひ崎より依一左右、則御陣替可然存候、如此之趣者隆元元氣にハあひ候ましく候得共、是ハまことにく一大事之手賦にて候、あらハひ崎へ陣替候てわくら山を取付候事、是非共後勢候へてハ更々不成事二て候、うしろ勢候へハ安堵候、さ候ハね者一大事二て候

一、何ハ不入候、あらハひ二て白鹿之趣見合つめ、陣取付候者涯分可仕、落儀候者則案内可申候間、隆元勿論可被差寄候く、もし又指寄候ても見かけもなく候者、かけ屋とあらハひの間二て数返之談合申候て、陣替候而可然候く

一、隆元懸屋に小者一人二ても在陣候へハ、うしろハ悉勢衆と敵味方可存候く、又小勢二てもかけ屋ハ用心もよき所候く、其上今程ハみとやに宍 山被居候事候

一、先あらハひ崎とわくら山を取候て、其上にて白鹿表之趣、みなく能々見及候て可申談との儀辻まで二て候く

【史料21】

包紙 村上太郎左衛門殿 平佐源七郎 就之

一、御方御内衆南条 方許容之儀、雖御堪忍候、弥被呼取被相抱候上者、於今者難有御堪忍之由候、尤被存候、雖然此節之儀候之条、何分様にも御分別可為祝着之由被申候、就其南条方へ以坪井若狭守被申遣候、聊無油断候

一、御兵糧米之儀、百俵約束被申候、然者五十俵御請取候哉、相残今五十俵之儀心得申候、廳而申付可被進之候

一、其表兵糧留之儀、堅固被仰付之由、尤肝要候、雖然爰許号家人奉行衆無一通等候へ共、米壳買候哉、不可然儀候、就其制札被進之候、此加判之衆、一通無之候者、兵糧之儀御出し有間敷候、為其制札調進之候、以此旨可被仰付候

一、安来湯原方昨日人数百程にて、爰許被取退候、大東口へも数人罷退候、猶以可罷退之由申衆中数多之由候、可御心安候、猶坪井若狭守可被申候、恐々謹言

就之 (花押) 平佐源七郎 就之

【史料22】

其後者不申遣候、爰元之儀、近日者從富田五十人・百人充、切々被退候間、可心安候く、仍其方之事氣相如何候哉、此等之儀切々可相尋候処、万事此表取乱、無十方候て不申遣候事誠心外候、なにやうにも養生候而、堅固之儀可為肝要候、自然用之儀候ハ、可申上候、猶此者可申候、謹言

六月廿八日 元就 御判
兒玉若狭入道殿 〔出雲尼子史料集〕一三八四号「閔閔録84・兒玉弥七郎」

【史料23】

包紙ウハ書 米原平内兵衛尉殿 宗麟 一
至防長一行之儀、預入魂候、得其意候、如承候、芸州事、此砌差寛候者、於向後茂一雅意不可有止事候之条、自他申談、可取詰覚悟、非油断候、然者勝久御一家再興此節候之間、各別而有馳走、被遂本意肝要候、猶年寄共可申候、恐々謹言

五月十七日 宗麟 (花押)
米原平内兵衛尉 〔出雲尼子史料集〕一四四六号「松原家文書」

【史料24】

態以使者申候、尼子牢人共、以但州催差集、致一揆之企由、雜説候、依之、定而其国地下人等可相騒候間、不可有油断之由、久修并番衆中へも申遣候、別而貴殿御馳走之儀、憑申計候、悉皆貴所御入魂可為祝着候、委細猶此者可申候条、不能多筆候、恐々謹言

六月十二日 元就 (花押)
原太郎左衛門尉殿 進之候 〔出雲尼子史料集〕一四四七号「原家文書」

【史料25】

急度令申候、尼子諸牢人一揆相催之口候、其表之儀、無御油断御心遣可為本望候、猶委細此者可申候、恐々謹言

六月十三日 輝元 (花押)
山中治部少輔殿 三戸源十郎殿 御旅所

【史料26】

日御崎大明神 奉寄進

出雲国神門郡於宇龍津、北国船勘過・駄別・諸役等之事

右意趣者、今度毛利乱入國中、既当家断絶之処、從但馬国凌遠海、至于島根忠山切渡、数剋之構勝負、亡大敵、雪会稽恥畢、然国家鎮安泰也、顧彼等冥慮、奉寄付之条、於未代、聊件役不可有相違候、若雖為他輩企競望者、其罰争免、況於子孫有違犯族者、且失冥頭加被、且為先蹤不孝、者、全社務、可被專祭礼修造者也、仍寄進状如件

永祿拾二年九月拾五日 孫四良源勝久（花押）

御崎檢校殿

『出雲尼子史料集』一四七八号「日御碕神社文書」

【史料 27】

宇龍浦新串之内着津舟、并北国船勘過・駄別・諸役等、被寄付日御碕仁御意趣者、毛利一族之者共就当国乱入、当家断絶之以来三・四ヶ年、然今度

（マ）

佐々木勝久、為散其鬱胸、從丹州以舟数百艘至島祢着岸之刻、防戰雖及数度、敵無得利乍敗北、国家静謐畢、併大明神之依加彼力也、爰以至子々孫々彼役之儀、全不可有相違、若於未代違犯之輩者、立可被蒙神罰事指掌訖、仍被仰出旨如件

永祿十二九月十五日

山中鹿介
幸盛（花押）

立原源太兵衛尉

久綱（花押）

目賀田新兵衛尉

幸宣（花押）

松田兵部丞

誠保（花押）

日御碕檢校殿

『出雲尼子史料集』一四七九号「日御碕神社文書」

【史料 28】

今度上口雜説候、就其富田現形衆之内、表裏之者共候ハ、為彼衆中之内涯分聞立、抽忠儀者別而可成褒美候、得其心其方短息肝要候、謹言

永祿十二年
七月三日

元就（花押）

「野村信濃入道殿

『出雲尼子史料集』一四四九号「野村家文書」

【史料 29】

御上以後、某許之趣不被申越候、定而不可有珍儀候歟、弥無心元之条、

（米原綱寛）

（坂元貞）

米平 并坂少六頓被差上候、此衆中勿論隆重 有相談之、早速静謐

（天野）

之才覚干要候、富田城無人之由候、咲止此事情、至隆重天野木工助事差上候、此表之儀、彼是相含候、聊無其油断短息此時候、重々可申候、恐々謹言

小早川

永祿十二年
七月十三日

隆景（花押）

野村信濃入道殿 進之候

『出雲尼子史料集』一四五〇号「野村家文書」

【史料 30】

態申候、某元事、各堅固之覚悟誠大慶之至候、粉骨之段無申計候、仍雲伯怨劇付而在所近辺相破之由、朦氣口惜候、此節其表之儀、以馳走相拘候者、静謐之上二て一所可進之候、弥忠儀肝要候、尚香川美作守可申候、恐々謹言

（永祿十二年）

七月廿一日

輝元（花押影）

元就（花押影）

安達十兵衛尉殿 進之候

『出雲尼子史料集』一四五三号「香川家文書」

【史料 31】

夜前、馬木・河本・湯原以下手返付而、旁我等雖令動遣候、各御堅固之覚悟無異儀候、向後弥元就・輝元様江可忠儀候事可為御同前候、然者大小共二無二申談可遂馳走候、如此申定候上者、一切不可存別儀候、若於偽存者、起請文略

永祿貳年

九月廿四日

天野紀伊守隆重

同 雅樂允元友

同 木工助元成

野村信濃入道殿

『松江市史』史料編4中世II一八三号「毛利氏四代実録考証論断・諸家証文写」

【史料 32】

大社御領之内、富方当知行并定連歌免林木之内橋爪名一名之事、被任晴久御判形之旨
御一通
被成御寄進、勝久被成○御判形候、此旨不可有相違之由、被仰出候、仍状如件

永祿十二年
十月一日

目賀田新兵衛尉
幸宣

立原源太兵衛尉

久綱

山中鹿介

幸盛

横道兵庫助

秀綱

松田兵部丞

誠保

富兵部大夫殿

『出雲尼子史料集』一四九七号「富家文書」

【史料 33】

大社御領之内、富方当知行并定連歌免林木之内橋爪名一名事、被任晴久御判形之旨、勝久被成御一通候、此旨不可有相違之旨被仰出候、仍状如件
永祿十二年
拾月一日

目賀田新兵衛尉

立原源太兵衛尉

山中鹿介

幸盛（花押）

横道兵庫助

秀綱（花押）

松田兵部丞

誠保（花押）

富兵部大夫殿

『出雲尼子史料集』一四九六号「富家文書」

【史料 34】

大社為定連歌免林木橋爪名一名寄進之所、如前々不可有相違候、無懈怠可被相勤事可為肝要之状、如件

永祿十二
十月朔日

勝久（花押）

富兵部大輔殿

『出雲尼子史料集』一四九四号「富家文書」

【史料 35】

其方当知行、晴久任判形之旨不可有相違候、并百姓等抱分地頭へ不能案内沾却候者、売手・買手共二不可相立候也、如件

永祿五
二月十日

義久（花押）

富兵部大夫殿

『出雲尼子史料集』一一二七号「富家文書」

【史料 36】

（包紙ウハ書）

右馬頭

棚守左近衛将監殿

御宿所

（房頭）

（端裏切封）

（墨引）

態一筆申入候、雲州之儀去月廿八日至多久和執懸、則要害仕執候、多久和大和守其外数多討捕候、大慶候、仍大明神江名代致社参候、御神楽銭四貫八百文進之候、弥御祈念頼申候、重畳吉事可申承候、恐々謹言

永祿十二年
二月四日

元就（花押）

棚守左近衛将監殿

御宿所

『出雲尼子史料集』一五五三号「厳島野坂文書」

【史料 37】

呉々御親父右京進殿御取退候、寔大慶候、御入魂之儀と存計候

御状到来祝着候、当城無緩被遂御在番之由、今度無二之御覚悟更以難申尽候、雲州衆高下共無正儀体候処、一篇之御届無比類存計候、弥可被抽御馳走候、仍去月廿八日中郡取出之、多久和両城即時切崩之、為初多久和大和守数百人被討果候、依之懸合之内氷之上・禪定寺河副相抱候城両所、并阿用・福富之要害落去候、即至三沢・横田打越、既明日市部・山

佐取出、富田城内衆令参会、雲伯可廻行覚悟候、此時至伯州之境、高信御行肝要候、吉事追々可申述候、恐々謹言

二月七日

隆景 御判

湯原平次殿 御報

〔松江市史〕一三〇七号「閔閱録115湯原文左衛門18」

【史料38】

「元就公・輝元公与当家之家臣

書写来、芸州本書在於住広島

名井豊前守子孫之家

態申候、雲州万願寺山之儀、敵取誘付而、神西在陳衆罷出可仕崩之覚悟候、就其人数之儀追々申越候、左候条、旁々儀近比御辛勞之至候へ共、銘々被成御出、預御馳走候者、可為本望候、此度之儀、於此方一人可為御扶助候、乍御不請此時急度御打出可目出候、為此以手次之間申候条不能詳候、恐々謹言

十月十五日

輝元判

元就判

名井豊前守殿

木原刑部左衛門殿

坂井三郎殿

檜山丹後守殿

児玉越後守殿

財満兵衛尉殿

〔松江市史〕一四〇〇号「平賀家文書」

【史料39】

御折紙拝見候、仍去比新山之者共従本庄船引越、新山々下二置候由其間候、然処去十六日夜忍寄、右舟二艘者至当城引取之、一艘□者於新山麓被切破之由候、殊敵聞付雖付送候、仕退からく橋迄引付御勝利由候、誠御馳走無比類候、剩大船候条、一段各辛勞察存候、雖不及申候、可被成御褒美候、至吉田則可遂注進候、猶吉事重畳可申入候、恐々謹言

駿河守

(元龜二年)

正月十九日

元春 (花押)

(元封ウハ書)

「多賀左京亮殿

(元定)

長屋左近大夫殿

御返報」

〔松江市史〕一四四〇号「多賀文書」

【史料40】

其表方々江落人数多有之由候、余無正儀候、可被相留候、其子細者新山・高瀬依無通路、号退衆通路させ候之由其沙汰候、然上者此以後之事ハ諸口への退衆可有誅伐之由申遣候、此以前退候者共之儀茂、自然武略扶持候而ハにて候間、能々可被相究事肝要候、為其申候、恐々謹言

駿河守

(元龜二年)

正月廿三日

元春 御判

湯原右京進殿

(春綱)

大垣八郎左衛門殿

(高直)

大垣次郎左衛門殿

〔松江市史〕一四四一号「閔閱録115湯原文左衛門108」

【史料41】

「(墨引写)

山田出雲守殿

御返報

駿河守

元春

御折紙拝見候、

一、先日□□山へ従備前兵粮差籠候処、□□□御方□□□至中途被差出、堅固ニ依被相支、彼兵粮不得差籠□□□山之儀、頓落去候事、旁御才覚之故候、誠無比類候、殊荒神山内々計略之子細候つゝ、我本丸ニ火を懸、焼崩候て、則時之落去之由候、其表之儀者不及申候、此表迄之競候、矢田事被討洩候て無曲之由、自高信も被申越候、尤之儀候、雖然要害被仕取候事、太利迄候、数人被討果候条、可然候、殊御方息又五郎□、敵四兵衛と申者被討捕之由候、御心懸無比類候、其外御方手へ頸四(ハメツ)被討取之由候、御粉骨之至候、追々山をさかさせられ候由候間、可被討捕候、今度荒神山儀ニ付而ハ、取分(ハメツ)ハ不能候、旁御勢を被入故候

一、従勝久、備前へ被差上候、三輪入道事(ハメツ)以御調略被呼抜之由候、さ候て新山・八橋・備前之内証、具被聞召之由候、肝要候、弥御尋候て、此方にも承、可成心得儀者可被仰越候

一、岩倉為向城、去月廿四日、淀山被取付候、岩倉切岸迄日々被差寄、被得勝利之由候、誠心地能被仰付様候、三頭岩倉何も雖御同然之儀候、八橋事、一日片時も頓一着候様ニ御行肝要候、御賢慮此節候、何様自是可申入候間、令省略候、恐々謹言

(元龜二年)

五月十五日

元春 花押

山田出雲守殿

御返報

〔松江市史〕一四七〇号「山田家古文書」

【史料42】

御折紙畏入候、昨日隱岐彈正方・多賀兵庫助息罷退候由承候、殊隠州一國一方一味之段太慶之至申茂疎候、殊更新山御行之儀付而、来廿四日ニハ元春此表江被成御陣易候、可御心安候、満願寺之儀ハ境目事と申、日夜御氣遣之段難申尽候、今分候者可為御安堵と察申候、猶期来慶候、恐々謹言

少輔十郎

(元龜二年)

六月五日

元秋 御判

湯原右京進殿 御返報

〔松江市史〕一四七七号「閔閱録115湯原文左衛門6」

【史料43】

返々、一段太慶本望候、追々吉事可申遣候
去廿一日注進状只今到来、遂披見候、新山之儀明退候哉、則乗移之由、尤大慶此事候、定而可討果候間、弥吉事待申候、新山衆引執之由、得其心候、弥堅固可申付事肝要候、謹言

(元龜二年)

八月廿四日

輝元 (花押)

野村信濃守殿

〔松江市史〕一四九〇号「野村家文書」

【史料44】

態令啓上候、当時宗景被仰段之候者、我等式迄大慶此事候、当表之儀者堅固之覚期、伯備中境目無異儀申付候条、可御心安候、就中龜井鹿介去秋此表被取退候、隠州為卜祇、今者但衆在身候、此節豊州至防長御進發候者、以其響雲伯之儀可及道候分二候、為其重而是使者之同前二御助言專用存候、仍硯一面令進入候、誠表輕志計候、尚永々可申述候、恐々謹言

(元龜三年)

三月十一日

尚春 (花押写)

村上中務少輔殿 まいる 御宿所

〔出雲尼子史料集〕一七四八号「島家遺事」所引森藩嶋家文書」

【史料45】

湯原右京進参上候、去々年之春以来加賀御要害御番被遂其節候、於彼人者少茂無休息馳走被申候、普請以下無緩心懸二候、取分可立御用父子共ニ内存候、去刻尼孫取入之節、富田江罷越無二覚悟候喜、行等談合仕候つ、然共米平被致御敵候之条、被相隔不及力次第候、乍去以右之首尾従高瀬・三沢江被退、其以後末次被仰付致御番馳走候、将又加賀御城番弥可遂其節上意二候者、屏隔子曾而無之候之条、御普請被仰付可被下之由候、殊ニ隠州二牢人衆在島候之間、渡口之事候、御兵粮玉薬之事申上度之由被申候、若又御普請不被仰付候者、御暇可被下之由候、定而従元秋可有御申候、吾等茂最前之次、如存仕候之間、不顧斟酌旁迄申入候、彼是被引合、可然之様ニ御披露所仰候、恐々謹言

天正二年之由

三月十二日

隆重 判

「桂左衛門太夫殿

天野紀伊守

児玉三郎右衛門尉殿

御宿所 隆重

〔松江市史〕一五四五号「閔閱録115湯原文左衛門123」

【史料46】

去月廿四日之御状、今月四日到来、披見候
一、北浦野波之内沖泊江船五艘盪掛、地下人二人取候而札を立罷退之由示預候、委細承知候

(春綱)

一、湯原右京進申分之儀、尤馳走之儀候、置兵粮玉薬百矢之事、從吉田可被仰付候、自船中見へ候条、普請之事是又尤候、急度一人

被差上候様ニ可申候、(野村士悦) 野信 茂吉田逗留之条、奉行衆可被申談候

一、湯三・湯右所江彼御番被頼思召之通、御一通之事可被指上候、彼衆中申分等曾而不被付手、使等茂機嫌悪候而罷上候間笑止存候(高信)

一、因州 武田 事不慮ニ被相果之由候間、彼国不可有正体之条、伯州之可為破候、左候へハ雲伯諸牢人可相集之条、其国之御弓矢ニ可罷成候、此時吉田宿老中軽々と短息候わてハ可為大事之段、五

日以来追々吉田へ茂 (吉川元春) 新庄 江茂申遣候

一、從多賀 (元龜) 長屋 方之一通等披見候、是又尤存候、委細調之趣、從吉田・新庄可被申登候、恐々謹言

(元龜四年) 五月四日 隆景 御判

(毛利) 元秋 (天野) 隆重 御返報

『出雲尼子史料集』一七六〇号「閏閏録115湯原文左衛門」

【史料47】 なをく女房衆へも心得「(山中)」

其後者久敷候、一、其元于今在身候て仕合共能候而可然存候、一、我等事去六月ニ至因幡罷渡、(山中) 幸盛 得料持候て在居仕候、如形仕合

候間可心安候、日野衆・牧兵 (尚春) など、不相易馳走候間本望候、一、女房共其外湯藤無何事候、我等同前ニ爰元逗留候、一、從隱州勝久様御渡海候、弥当国御本意成行候、一、其之儀此方へ於被越者可然候、我等事ハはたはりもなく候間、幸盛可有御抱由候、然者又太郎

事ハ、我等所に不弁候共堪忍仕、向後愁詔等被相達候者、我等も外聞能候へく候、家来事委細存知前にて候、いつれなり共、先年之老者共跡職一人前可申付候、当座かんにんの所も涯分可心付候、只今十も廿も召遣候者共、たふん新参者にて事をかき候、菟角先早々かりそめに又太郎を此方へ可給候、様体直ニ談合仕、爰元之趣をも見七候て、其上にて思安をすめ候て、其時それの事ハ左右次第ニ可被罷越候、如此申候へ共、其方にて仕合共一段能候者、此方之儀無苦敷候、先々手前相つかれ候て可然候、其方も弓矢前にて候へ共、此表之儀、たゞいまの時分かん用之折節にて候間、又太郎事候可被越候、我等当国にての知行之儀も随分相定体候、何もく向後之思安分別此時候哉、恐々謹言

八月廿一日 久綱 (花押) (端裏ウハ書) いなはわけ

原 一 まいる 宗太 一

『出雲尼子史料集』一七六四号「米井家文書」

【史料48】

(井上春忠) 又右衛門尉所江之御折紙披見候、因州表之儀伊田・用瀬敵心之事者爰元江茂注進候、左候共鳥取・岩井をハ堅固ニ持拔、加勢可待付と之儀、此御折紙之不審ニ候、祖式途中まで罷下候との事仰天之様候、從爰元茂草井小次郎と申者昨朝差登候、御方之儀伯州迄可有御登之由尤候、追々到来候間可蒙仰候、御氣仕無余儀候、頓承趣得其心候、恐々謹言

左衛門佐

(天正元年) 九月十二日 隆景 御判

久芳兵庫助殿 進之候

『出雲尼子史料集』一七六五号「閏閏録117・久芳五郎右衛門」

【史料49】

呉々今度御方忠儀之段無申計候、無二之覚悟を以、各無恙取退れ候段無比類候く、必從是可申述候く

御折紙令披見候、誠鳥執之儀此方加勢遅々付而、一着不能是非候、御方之儀彼表御氣遣候而心劳候処、彼家中衆別心之故不被相叶候段尤候、無何事御下先以可然候、於此上者伯州之氣遣成候条、鹿野之儀可取付之由各令相談、今日 (杉原) 盛重・(宗勝) 南条 処江申遣候、涯分無緩候、濃々御紙面之趣具令披見候、必自是重々可申述候条不能具候、恐々謹言

(天正元年) 九月廿七日 駿河 元春 御判

久芳因幡守殿 (賢直)

『出雲尼子史料集』一七六六号「閏閏録117・久芳五郎右衛門」

【史料50】

去年其表令出張候之処、御方之義元就以來別而御入魂首尾、(山名) 豊国・此方令入眼、外聞可然帰陣候、誠ニ太慶此事候、然ハ

(山中幸盛) 山鹿 事私部表在身ニ而、國中種々調略之由不及是非候、此方出勢於油断者、不可有正儀之由、御内儀令承知候、自然御方其表於御取退者、御書 (マ)、前被遣候様可申調候、於其段ハ聊不可有御疑心候、雖不及申候、豊国無二御入魂之由候間、何も様ニも当城之儀堅固之御行專一候、此方出勢之儀、不可有油断候、(杉原) 盛重・(宗勝) 南条 急出張之義申遣候、去年ニハ可相易候間、彼衆中江不可有緩候条、宗勝へ直々ニ茂御方可被仰談候、爰元之儀余程遠候之間申事候、尚御使上申候条不能多筆候、恐々謹言

(天正元年) 三月廿六日 元春公御判

田公次郎左衛門尉殿 御返報

『出雲尼子史料集』一七七三号「吉川家中并寺社文書」

【史料51】

追而 作州高田城、弥堅固之由、尤肝要候、仍塩硝之事承候条、壺(二)進之候、委細此使可申候、恐々謹言

(天正二年九) 十一月十九日 宗麟 (花押)

(山中幸盛) 龜井鹿介殿

『出雲尼子史料集』一七八五号「橋本家文書」

【史料52】

内々被仰越、(山中幸盛) 山鹿 至其境取出候事、既以神文被申之条、定不可有緩而大慶候、併各御賢処故候、猶以御智略此節候、当表之儀も仔細候条、彼働筈ニ合候様ニ、随分可申付候、次信長此方加勢之事申調候、以其首尾神太郎事者、晦日ニ差上候条、不可有油断候、今少シ御辛身候間、各被仰合、御粉骨於宗景可為喜悅候、委細猶御同兵江令申候条、不能多筆候、恐々謹言

浦上

宗景

二月十七日 牧菅

石与 進之候

『出雲尼子史料集』一七八八号「美作古簡集」

【史料53】

(幸盛) 対山中 鹿助、去年以来言上之趣、尤以神妙候、就其羽柴筑前守在国候条、相談此砌一廉忠節專一候、於恩賞者望之段不可異儀候、猶 (正家) 蜂須賀可申候也

(天正三年) 二月廿二日 (織田信長) (朱印)

(景継) 草苅三郎左衛門尉とのへ

『出雲尼子史料集』一七九二号「草苅家証文」

【史料54】

〔墨引〕

来札令披閱候、芸但間就和与、償之儀被及案内候、得其意候、但州之儀、如申旧候、此方可為分国之旨兼約之処、近年不通候条、雖遣

恨候、為雲伯并為尼子勝久・山中 (幸盛) 鹿介 已下之諸牢人退治、於可然者、無事入眼尤候、依最前之筋目、御届祝着候、猶夕庵可申候、恐々謹言

七月六日

信長 (花押)

小早川左衛門佐殿

「小早川左衛門佐殿 信長 一

『出雲尼子史料集』一七九七号「小早川家文書」

【史料55】
〔天正三年六月十七日条〕

一、十七日若狭乃町を通りけるに、其城の有主、二・三日前ニ山中鹿助謀略を以生取、若狭の城を知行し、さし籠らるゝ人数に行合候、其より行てたち井殿乃城有、亦半廻乃城とて有、廳而石井大膳介峯入ニとて、山法師支度にて出たゝるゝ所に行合、彼人亦跡のことく帰り、舟岡といへる町にて夜終、いにしへ乃事共語、宿助左衛門

〔『出雲尼子史料集』一七九六号「島津家久上京日記」〕

【史料56】
別紙御返札拝見、快然候、頃日体定従方々雖可被申候、承及通以一通令申候

一、就御下、若桜要害殊外相究候、殊郷内百性等依罷出、本意之様被申触事、可有御推量候、雖然御人数等被残置候間、珍行無之候、可御心安候

一、当国事、依御下国宵田・西下心持相替、手前可然様取成存候、水尾山通路事、剩度々雖被申候、以申談筋目、于今差留候、最前如申理候、此方手前依方々相支、不覃行候、可預其御意得候

一、信長江従出石・竹田連々依為懇望、惟任日向守至丹波乱入候、

則 荻悪 自竹田表被引退、被楯籠黒井城候、於彼城之廻、十

二・三ヶ所被付置相陣候、此内近者城々尾崎一陣被執堅候、兵粮等不可相続候間、来春者可為一途様風聞候、丹波国衆過半無残所

〔明智光秀〕

惟日 一味候

一、信長去月十三日上洛候、大坂半相調、今月十三日帰国候

一、武田 四郎 方至飛驒出勢風聞候、遠国事候間、□儀者不存候、内々其聞候

一、播州事、池田信濃守・宗景 江兵粮少々被指籠、十月五日被打入候、信長在京付而、

屋形 龍野 御着 宗

景・三木 其外為礼上洛候

一、於田結庄表、垣駿被及一戦、被得勝利候間、海老手之城、于今無異儀被持之候、不可有御氣遣候

一、被对此方、山鹿 儀者不及申、宵田・西下・立源太可有存分之様、雖風聞候、只今迄者珍儀無之候、自然於必定者、自是可申候

一、当国為無事取扱、自信長以朱印、従惟日被差越使候、強而於被申者、宵田・城崎・田結庄・西下難被背候間、可相整候哉

一、鹿介其方不被相捨懇望由候、如何被成御返答候乎、相替御思案候者、預り知、可成其意候

一、来春者可有御上候哉、於其分者、若桜儀不可有程候歟、迎御懇儀候間、御心底通、無御隔心於被仰越者、弥可為本望候、尤態雖可申入候、以好便令啓候、旁以御返酬奉待候、恐々謹言

十一月廿四日 豊信 (花押)

〔天正三年〕

吉川駿河守殿 御宿所 〔『出雲尼子史料集』一八〇五号「吉川家文書」〕

【史料57】

旧冬従因州御陣所、以心蓮坊被仰越次第、委曲申聞、被及返答候、山鹿事、不可有許容由候、於時宜者、心蓮坊ニ申涉候つる、彼表被任御存分付而、御開陣之由可然存候、猶自 聖門様可被仰伝候、恐々謹言

三月四日

三月四日

吉川駿河守殿 御報

〔『出雲尼子史料集』一八〇六号「吉川家文書」〕

【史料58】

〔折封ウハ書〕

吉川駿河守殿 御返報

〔端裏切封〕

〔墨引〕

返々、去年対徳田方申理之間、此節候哉、此方事成行一分之手前候、只今於不被副御心者、兎角可及迷惑候、具御両使申渡趣、急度御一左右、可為快悦候、かしく

態預御使札候、抑去年者如貴意因州表儀被廻賢謀依御在陣候、属御本意候、随而鬼城事、雖被残置候、相城等数多以被付之故、頓退散候、先以珍重存候、仍御太刀一腰、馬一疋被懸御意之候、至遠国御懇切難述一毫候、兼亦此表事、於手前者雖無由断候、不被加御才略者、難止■候、旧冬御開陣御令申通、深重対御兩人申候、旁御入魂專用候、恐々謹言

〔天正四年〕

五月七日

豊信 (花押)

吉川駿河守殿 御返報 〔『出雲尼子史料集』一八〇八号「吉川家文書」〕

【史料59】

御音札畏入候、如仰近日者依無題目、申隔無音罷成心外存候、聊非心疎候

一、為相談吉田ニ各集会仕候、従何方茂珍敷到来無之候、何茂近日帰宅可申候間、必自在所可申入候

一、大坂表弥堅固之由候、年内兵粮今一とをり可被差籠との儀候、重而之儀に少警固ニても可輒之由候、警固四・五十程ニて可指上催に候、淡路儀此方無等閑候条、大坂への兵粮之儀無相違可被籠之由候

一、下口之儀、是又珍敷義無之由之間、可御心安候

一、郡山へ切々雖可被仰越候、依無題目御無音之通蒙仰候、輝元可申聞候、呉々我等社可申入候処、御懇之儀畏入候

一、但州之儀、豊国 杉谷与申在所迄出張候て、彼国之儀所々調略半候、塩屋新五事此方一味候、雲伯牢人も方々分散之由候、先以

可然候、山鹿 八京都ニ罷居由候、去年私部表在陳之砌、山

鹿取付相抱候菟束城之儀、八月廿二日八木方被仕捕候、可然趣候

間先以可御心安候、必自是可申入候条令省略候、恐々謹言

〔天正四年〕

十月七日 元春 (花押)

〔礼紙墨封ウハ書〕

〔墨引〕

長旌 御返報 元春 〔『出雲尼子史料集』一八一二号「吉川家文書」〕

〔端裏ウハ書〕

羽柴筑前守

雖未申通候、令啓候、西国行之儀ニ付而、至此表令着陣候、然者

連々以山中 鹿介 方被仰上候、御内存之通承届候ニ付而、被成 御

朱印候、御忠節次第、最前之筋目、聊以不可有相違候、猶従山鹿方被申□□□、加彦四可被申候条、閣筆候、恐々謹言

〔天正五年〕

十月廿六日 秀吉 (花押)

江見九郎次郎殿 御宿所

〔『出雲尼子史料集』一八一五号「江見文書」〕

【史料61】

遠路為御見舞預御使者、御懇意之至令祝着候、仍今度播州人質之事、但州一国之様子委曲左京殿へ申入候条、定可為其聞候

一、但州悉以為存分隙明候条、去廿七日至作州堺目相働候処、播州佐用郡内ニ敵城三ツ候、其内福原城より出入数相防候、然ニ竹中半兵衛・小寺官兵衛兩人先へ遣し候処、於城下及一戦数多討取候、我小者ニ平塚三郎兵衛と申者、城主討捕候処、其弟助合候を同討取候、以其競城乗崩、悉不残討果申候事

一、右福原城より一里程先ニ七条と申す城へ翌日廿八日押寄取巻、

水之手取候処、為後巻此方陣取、上之山へ宇喜田被出候条、城ニ

令手当置切懸及合戦、散々切崩、備前堺迄三里斗之間追付、首数

六百十九、其外雑兵切捨候、夜ニ入候ニ付、宇喜田不討留事無念

存候、乍去明石三郎左衛門・まなこ彦左衛門・さゝの原討捕候、此両三人事、西国にての才覚先懸第一之者と申候事

一、合戦場より引返し、七条城弥取詰、水之手取候付、色々侘言候へ共不能承引かへり、しゝかき三重ゆいまわし、諸口より亦より

申付、去三日乘入悉刃首、其上已来敵方之こりと存知、女子共二百余人備・作・播州三ヶ国之堺目ニ子ともをかくしニさし、女子をハはた物にかけならへ置候事

一、最前之合戦首共今度七条討果、首塚二ツつかせ、悉以任存分候事

一、当郡別所中務と申者之城、今一ツ迄候、種々懇望令人質三人召置、城をハ来二月迄預ケ立置申候事

一、作州之内新免弾正左衛門人質を召連罷出候間、居城させ此方一味候事

一、右七条城、備・作・播磨之堺目ニおゐて、可然所ニ候之間、山(幸盛)中鹿ノ介今度我等相抱候条、足弱をハ三本ニをかせ、七条城ニ残置候事

一、如此之上当表隙明候条、今日五日播州龍野迄打入候、やかて令帰陣候条、其刻可申入候、猶御使者へ申度候、恐々謹言

(天正五年)
十二月五日

秀吉(花押)

下村玄蕃助殿 御返報

『出雲尼子史料集』一八一六号「下村家文書」

【史料62】

長々被届、牢々粉骨不浅候、然間□□諸□領・諸名職・諸買地并諸闕所等之事、何茂違儀有間敷候、縦先□□之時、有主之領知成共、貴所御届之上者、少茂不可有別儀候、以此旨于今無替御届肝要候、向後全不可有相違者也、仍如件

天正五

十二月八日

勝久(花押写)

「□□」□下

『出雲尼子史料集』一八一七号「熊野神社文書」

【史料63】

態令啓候、仍去十八至上月指寄候、敵要害之儀見懸候条急度一着可申付候、殊雲伯因作諸牢人罷居候、悉取卷候条、此度無殘可討果候間本望候、次其表之儀爰元在陣候○被相救候て人数各被呼寄、上月一着之間之儀、碯在番肝要之儀候、少茂不可有緩候、猶吉事期後喜候、恐々謹言

駿河守

(天正六年)
卯月廿二日

元春 御判

(元綱)
湯原弾正忠殿 御陣所

『出雲尼子史料集』一八二二号「閲閲録115・湯原文左衛門」

【史料64】

永々被遂牢、殊当城籠城之段無比類候、於向後聊忘却有間敷候、然者何へ成共可有御奉公候、恐々謹言

七月八日

幸盛(花押)

(紙継目)

(捺封ウハ書)
「(墨引) 遠藤勘介殿 参

山鹿」

『出雲尼子史料集』一八三九号「吉川家文書」